

平成 29 年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力:「アルメニア共和国における新生児聴覚検査改善計画」関連:人工内耳「スイッチオン」

2018 年 8 月 9 日、3 歳の時に聴力を失った 5 歳のアルピネちゃんへの人工内耳の「スイッチオン」が、エレバン市内の「エレブニ」病院にて行われました。最初の数秒間、彼女は自身の周りの全ての音が再び聞こえ始めて驚きましたが、数分後には慣れてきて、笑顔を増やしながら音の世界を楽しみ始めました。

本式典には山田淳大使（在アルメニア日本国大使）の他、アルセン・トロシヤン大臣（保健大臣）、ミカエル・マヌキャン教授（エレブニ・メディカルセンター事務局長）、アルメニア国際医療基金会長兼創設者であるサルピィ・アカラギャン女史が出席しました。

日本政府は、平成 29 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みによる「アルメニア共和国新生児聴覚検査改善計画」を通じてアルメニアの子供の聴覚障害への取り組みに貢献してきました。この贈与契約は 2018 年 3 月 14 日に日本大使館と NGO「ハバット」間で署名され、総額 90, 667 米ドルが日本政府より供与されました。（2018 年 7 月 20 日の完了式典の詳細は[こちら](#)をご参照下さい）



